

飲酒運転根絶に向けた県学校長会の取組

飲酒運転根絶のための教職員セルフチェック 氏名 ()

教職員一人一人が、セルフチェックをすることによって状況を把握し、データを職場で共有し、職員同士が互いに事故防止に配慮していけるようにしましょう。(私的な酒席への参加を含みます。)

以下の項目について、「はい」「いいえ」のどちらかで答え、○印を付けてください。

チェック項目		はい	いいえ
飲酒の状況について	車で出かけた酒席では、勧められても酒を飲むことはない。 (酒を飲まずに帰る予定で参加した酒席では、酒を勧められても飲んだことはない。)		
	休前日の酒席では、24時を過ぎて飲むことがある。		
	酒席に誘われると断れないタイプである。		
	翌日が勤務日の場合、「22時を目安に帰宅しよう」と言い出す方である。		
	酒を飲んで、記憶がない、一部分忘れるなどのことがある。(1回でも)		
	酒を飲んだ後、自家用車の中で寝たことがある。		
	飲み始めると分量を加減できないことがある。(または、勧められると飲んでしまうタイプである。)		
	何時に帰宅したかわからない時がある。		
酒席への行き方について	酒席へ自家用車で行くことが多い。		
	酒席の開始時刻に遅れそうな時は、自家用車で行くことがある。		
	酒席の前日までに、往復の交通手段を決めることが多い。		
飲酒運転について	これまで、乾杯の一口程度の飲酒では運転したことがある。		
	飲酒運転した人すべてが摘発を受けているわけではないと思う。		
	飲酒運転が懲戒免職処分又は停職処分でなければ、少量の飲酒だったら運転するかもしれない。		
	飲酒していたと思われる人が運転する車に乗ったことがある。		
	飲酒運転で摘発された教職員は運が悪いと思う。		
帰宅方法について * これまでに運転代行を使用したことがない場合は「いいえ」で答えてください。	酒席から帰宅する際に利用する電車やバスの時刻がわかっている。		
	* 運転代行の電話番号が携帯の電話帳に複数入っている。		
	* 運転代行を呼ぶ時は、同僚や店の人をお願いすることが多い。		
	* 運転代行で帰宅途中、自宅近くで代行を帰したことがある。		
	* 運転代行で帰宅すると、5000円以上かかる。(よく利用する居酒屋等を想定して)		
	* 運転代行を呼んでも、待ち時間が長いと、タクシーに変更する時がある。		
	同僚や知人の車に乗せてもらって帰宅する時、同僚の飲酒を確かめたことがない。		
	教頭(幹事役)が飲酒前に確認した帰宅方法と、実際の帰宅方法が違ったことがある。		
翌日のアルコールチェック	アルコールチェッカーが使える状態にある。(常備してセンサーの有効期限や電池も確認済み)		
	飲んだ翌日は、出勤前にアルコールチェックをしている。		
	家族や同僚から酒くさいと言われたことはない。		
その他	酒席から帰宅した時に、家族から帰宅方法を確認される。		
	家族は、飲酒の量などについて気を配ることが少ない。		
	酒席がある場合の往復の交通手段については、家族にも知らせている。		